

「震災報道と平泉」

株式会社岩手日報社
取締役論説委員会委員長
小笠原 裕

「右一音(いっとな)の覃(およ)ぶ所千界を限らず。抜苦与楽、普(あま)ねく皆平等なり。官軍夷慮(いりよ)の死事、古来幾多なり。毛羽鱗介(もううりんかい)の屠(と)を受くるもの、過現無量なり。精魂は皆他方の界に去り、朽骨(きゅうこつ)は猶此土(なおしど)の塵(ちり)と為(な)る。鐘声の地を動かす毎に、冤霊(えんれい)をして淨刹(じょうさつ)に導かしめん」

(中尊寺建立供養願文より)

岩手の人

高村光太郎

岩手の人^{まなこ}眼静かに、
鼻梁秀で、
おとがひ堅固に張りて、
口方形なり。
余もともと彫刻の技芸に遊ぶ。
たまたま岩手の地に来り住して、
天に余に与ふるもの
斯の如き重厚の造型なるを喜ぶ。
岩手の人沈深牛の如し。
両角の間に天球をいただいて立つ
かの古代エジプトの石牛に似たり。
地を往きて走らず、
企てて草卒ならず、
つひにその成すべきを成す。
斧をふるって巨木を削り、
この山間にありて作らんかな、
ニッポンの脊骨^{せぼね}岩手の地に
未見の運命を担ふ牛の如き魂の造型を。

「Haste not、Rest not」

(急ぐなかれ、たゆむなかれ)

新渡戸稻造の言葉

「怠らず行かば千里の外も見ん 牛の歩みのよし遅くとも」

道歌

【メ モ】
